



学校経営ビジョン

令和7年2月26日（水）現在

「すてきな つばやっ子になろう！」
～すすんで てっいていて きらめいて できるつばやっ子～

重点目標	達成目標	4段階評価の平均 十分達成＝4　概ね達成＝3 あまり達成できていない＝2 ほとんど達成できていない＝1				評価指標(アンケートの到達目標)	評価指標達成状況及び次年度の改善策等	達成度評価 (自己評価)		学校運営協議会委員による評価 期待以上A　期待どおりB 期待を下回るC　要改善D	
		児童 自己評価	保護者 自己評価	職員 自己評価	全体平均			平均3.2以上 平均2.4未満	A C	評価	コメント
個に応じた指導の充実、 学ぶ意欲と学力の向上	基礎基本の確実な定着と学ぶ意欲の向上	3.8	3.0	3.0	3.3	○単元末テストで学年平均80点以上	アンケート全体平均3.2を上回った。主題研究を中心とした日々の授業改善や、個別の指導、昼活動のスイッチオンタイムの活用などの取り組みを行った。次年度はさらに、授業の振り返りと習熟の時間をとり、学習内容の定着度の見届けと把握を行う。	A		A	○ 読書については、どこの学校も似ている様です。ここを伸ばせば…。 ○ 全体的には「A評価」で問題ないと思います。家庭学習と読書について、手法や工夫が必要なのかもしれません。 ○ 概ね良好である。改善したい点について様々な考察があるので次年度につなげてほしい。 ○ やはり今年度も読書の評価が良くない。図書室の様子を見る限りあの手この手の工夫が見られる。 ○ 複式学級で大変な中、成果も上がっていて素晴らしいと思います。 ○ 少人数で複式クラスの授業は、準備も含め、大変なことが多いと思う。子どもたちの評価が高いのは、先生方が努力、研究されているからだと思う。大勢の中で切磋琢磨することで身に付くことも個性の一つだとしたら、それができないことでの個に応じた指導というのは容易ではないだろう。 ○ 読書については、情報媒体の多様化している現状では、興味を持つことから始めるしかないのかもしれない。 ○ 大人の評価に対して児童の評価が高いことが興味深い。大人の期待に対して児童は頑張っていると思っている。結果に結びつくといい。 ○ 子供が学習に取り組む意欲が以前と比べて増加したように感じています。今後もさらなる向上に期待します。 ○ 学ぶ意欲の向上・授業の工夫等、先生方の取組により、子供達は充実した学びが出来ている様に見える。
	児童にとって分かりやすい授業の工夫・改善	3.8	3.0	3.0	3.3	○研究授業1人年2回以上	アンケート全体平均3.2を上回った。放課後の勤務時間を教材研究に充て、ひなたの学びを意識した授業改善を行った。また、一人2回の研究授業を実施し、確実にフィードバックを行い、職員全体で授業改善について協議することができた。次年度は引き続き、ひなたの学びと研究主題を意識した研究を実態に即して推進する。	A			
	家庭学習の充実	3.4	3.0	3.0	3.1		アンケート全体平均3.2を少し下回った。量や内容などを工夫し、個に応じた家庭学習を工夫する。また、タブレット教材も活用し、家庭学習の充実に図る。	B	A		
	個に応じた指導の充実	4.0	3.2	3.0	3.4		アンケート全体平均3.2を上回った。普段の授業における授業内容の精選やICT教材の活用などを通して、学習意欲を高める工夫を行うことができた。次年度は、タブレットドリルを活用して学習内容の定着度を見取り、指導に生かしていく。	A			
	読書環境整備、読書指導の充実	2.8	2.1	2.3	2.4	○学期目標冊数 1・2年…50冊 3・4年…40冊 5・6年…30冊	図書館内の環境整備、古い書籍等の廃棄を行った。委員会による季節のおすすめの本を展示し、選書に役立てることができた。親子読書や保護者・地域の方々による読み聞かせを実施し、読書の推進を行ってきたが、学校では本を手取る機会も多いものの、家庭における読書しようとする意識についてはなかなか高めることができなかった。次年度も引き続き、親子読書に取り組ませ、図書便りを発行するなど、家庭への啓発を行う。	B			
体験活動を通じた豊かな心の育成	体験活動の充実	3.8	3.5	3.3	3.5	○稲作体験等の完全実施	地域の方の協力により、様々な体験活動を行うことができた。児童は、総合的な学習の時間児童も意欲的に取り組むことができた。その結果、全体的によい評価を得ることができている。次年度も計画的に活動を行い、通信等を活用して広報にも力をいれていく。	A		A	○ 全体的には、「A評価」で問題ないと思います。「整理整頓」や「時間を大切にする」は、将来社会に出る上で必要なことだと思いますので、気付かせる方法が考えられれば、良い方向に進むと思います。 ○ 一人一人の担う役割が大きく、個々が判断して行動しなければいけない領域は豊富と思われる。将来において必ず貴重な体験であったと感じるであろうことを期待する。今年は、御田植祭、抜穂祭で関わったこと、大変有意義であった。 ○ 日頃からの先生方の指導による成果と思います。すばらしい取組だと思いますので、来年度も宜しくお願いします。 ○ 「若山牧水先生の母校」という位置付けでの体験活動は、毎年充実していると思う。 ○ 子どもたちは仲良く、上級生は下級生を見守り、リーダーシップをとれていると思う場面も見かける。 ○ あいさつをはじめとする生活習慣の育成は、家庭の力によるものが大きいと思う。 ○ キャリア教育は、子どもたちのこれからに大きく関わってくることなので、大事に展開して行ってほしい。 ○ 坪谷小学校での活動は十分であると思う。 ○ 坪谷小に於いての体験活動は、他の学校にはない貴重なもので、子供の郷土愛を育むために大いに貢献しています。 ○ 地域との様々な体験活動は、学校や家庭とは違った環境の中で、各学年に応じた役割を学び、上級生はリーダーシップを、そして、下級生はその姿をお手本とし、次の段階への準備をするなどと地域に根付き、また、少人数校の良さでもある全員参加を活かせる良い環境にあると思う。
	キャリア教育	3.4		2.8	3.1		キャリアパスポートの整備及び共通理解を行うことができた。それぞれの行事や学習で児童が自らの活動を振り返ったり、家庭への持ち帰りをを行うことで保護者にも確認してもらい、コメントをいただくこともできた。学年によっては取組に差が見られたため、引き続き呼びかけを続けていく。	B			
	縦割り班における人間関係の醸成、リーダー性の向上	3.8	3.1	3.3	3.4		総合的な学習の時間や行事・清掃の時間などに、おすず班を中心とした縦割り班での活動を行うことができた。人数が減少する中、異学年間の交流の機会をもつことが減ってきているが、人間関係の醸成を図る上でも、現状に合わせて充実させていく。	A			
	牧水顕彰活動を通した、自尊感情、郷土愛の育成	3.6	3.5	3.5	3.5	○顕彰活動完全実施	牧水生家清掃や牧水ケ丘祭りなど予定されていた顕彰活動を全て実施することができた。牧水生家清掃では、班で協力して清掃活動に取り組み、若山牧水先生が見ていた坪谷の景色にも注目しながら活動することができた。登校時の短歌朗詠や、短歌作り等においても若山牧水先生に触れることができた。次年度も継続して顕彰活動を実施し、自分たちの地域や学校に誇りをもてるようにする。	A			
	元気のよいあいさつのできる児童の育成	3.3	3.3	3.1	3.3		アンケート全体平均3.2を上回った。明るく、自分から挨拶をすることを常時指導することができた。次年度は、挨拶がよくできている児童を称賛し、気持ちのよい挨拶をすることの価値づけを行っていく。また、学校外での挨拶についても、学校と同じようにできるよう指導する。	A	A		
	指名をされたら「はいっ」と返事ができる児童の育成	3.6	3.2	3.0	3.3		アンケート全体平均3.2を上回った。名前を呼ばれた時に返事をするを常時指導し、児童に意識させることができた。次年度は引き続き、いつでも、誰に対しても元気な返事ができるよう、常時指導していく。	A			
	感謝の気持ちをもち「ありがとう」が言える児童の育成	3.8	3.5	3.1	3.5		アンケート全体平均3.2を上回った。行事等の事前、事後指導の際、保護者の方や地域の方の協力があって活動できることを意識させることを通して感謝の気持ちをもたせることができた。次年度は、身近な友達や家族に対して、日常的に「ありがとう」が言える児童を育てるため、人権教育や道徳教育の充実に図る。	A			
	身の回りの整理整頓ができる児童の育成	3.1	2.3	3.0	2.8	○整頓の日、記名の日完全実施	アンケート全体平均3.2を下回った。次年度は、週に一度は、教室の身の回りの場所を整理整頓させる時間を設ける。また、記名指導を徹底し、児童の持ち物に目を配るようにする。	B			
	時間を大切にすることができる児童の育成	3.1	2.7	2.8	2.9		アンケート全体平均3.2を下回った。4月の重点目標として、時間を守ることを意識づけや、ノーチャイム週間の実施を行った。次年度は、1分前着席やチャイム黙想などのきまりを職員と児童が共通理解して指導していく。また、授業開始と終了の時刻を確実に守るようにする。	B			



令和6年度 日向市立坪谷小学校 学校関係者評価書 No.2

令和7年2月26日（水）現在

重点目標	達成目標	4段階評価の平均 十分達成＝4　概ね達成＝3 あまり達成できていない＝2 ほとんど達成できていない＝1				評価指標(アンケートの到達目標)	評価指標達成状況及び次年度の改善策等	達成度評価 (自己評価)		学校運営協議会委員による評価 期待以上A　期待どおりB 期待を下回るC　要改善D		
		児童 自己評価	保護者 自己評価	職員 自己評価	全体平均			平均3.2以上 平均2.4未満	A C	評価	コメント	
健康食育を基盤とした向上	「早寝・早起き・朝ご飯」を実践できる児童の育成	3.2	2.9	2.6	2.9		長期休業明けの生活チェックやメディアコントロールを実施した。実施期間中は、意識して生活リズムを整えようとする児童が多かった。一方で、特に2学期は、睡眠不足や疲労が考えられる体調不良者が来室することもあり、下校後の時間の使い方に課題がある児童もいた。学期1回の保護者向けの生活習慣に関するアンケートでは、メディアに関して困り感を抱える保護者もいた。引き続き、長期休業前や全校集会、掲示物等での保健指導を行ったり、保健だよりを活用したりして、保護者に向けた情報発信をしていく。また、児童が自分の生活リズムの課題を可視化できるよう生活チェックカードを活用する。	B	A	A	○「A評価」でよいと思います。家庭における日頃の生活習慣で良くなるのではと思います。積極的に取り組んでほしいです。 ○子ども達に接していると、常に元気極まりない。健康面・体力面において充実していると思う。一人一人の役割が大きいだけに、精神面の観察・対応フォローも続けてほしい。 ○近年、子供へのSNS等の誘惑も多く、親も大変だと思っています。 ○食育は、幼い頃からの教育が必要だと思うし、本来は家庭で育むものだと思うが、学校での指導も大切だと思う。養護教諭の指導の取組は大変良いと思う。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」は、メディアの多様化等で難しい場面も増えるのだろうが、そこに向けて家庭とともに指導して行ってほしい。 ○メディアコントロールは、大人も難しい課題。食育指導は、家庭の取組も大切と感じる。 ○早寝・早起きについては、ライフスタイルの変化もあり難しい点もあります。今後は、保護者も協力して生活リズムをより正しくできたらと思います。 ○メディアコントロールは、家庭でのルール作りが必要だと思う。スマホ、ゲーム等、身近に有りすぎて、難しい問題ではあるが、継続的に呼びかけて早寝・早起きに繋げていくしかないと思う。	
	体力向上プランをもとにした日常運動や体育の時間の工夫・充実	3.8	3.1	2.8	3.3	○体力向上プランの実践事項完全実施	体育指導における児童及び保護者の達成度が高いことから満足度の高さが伺える。しかし、職員の評価については低い。そこで、教職員、児童、保護者がわかる形で体力の向上の指導の仕方及び目標とする児童の姿の共有を行い全体評価をより高められるようにする。	A				
	栄養教諭などの活用を通した食育指導の充実	3.5	3.3	3.6	3.5	○栄養教諭訪問の完全実施	11月に全学級で栄養教諭の食育授業を実施した。また、給食センターの職員を招き、給食指導に入っていた。調理員からの話を聞く時間を設定し、栄養教諭と連携した食育指導ができた。次年度も栄養教諭と連携し、食への感謝の気持ちを育む食育指導を実施する。	A				
	家庭料理の日の内容の充実	3.7	3.0	3.3	3.3	○家庭料理の日の完全実施と、通信等での連絡評価	夏休みと冬休みの年2回「家庭料理の日」を実施した。ワークシートを廊下に掲示し、児童同士がお互いの取り組みについて振り返る機会をつくった。また、食育だよりで児童の取組を紹介することで、保護者にも情報発信することができた。今後は、ワークシートを綴っているファイルを有効活用し、今までを振り返りながら取り組めるようにする。	A				
地域等と連携した学校運営の推進	学校と地域との連携の充実		3.4	3.2	3.3	○運動会などの行事における地域方々への参加呼びかけ	保護者や地域の方との語り合いの機会とすることができた。地域の高齢化により、行事への参加が難しくなっているが、保護者の希望や思いを受け止め、充実した行事にすることができた。今後も、地域人材から学ぶキャリア教育の視点を意識した体験活動を展開することにより、学校が地域づくりに貢献していく。	A	A	A	○素晴らしい「A評価」です。本校は、地域との連携が不可欠なので、これからも継続してほしいです。 ○地域の立場からすれば、小学校への参加が少ないのは寂しい限りである。高齢化も進み無理強いもできないので、悩み多き状態である。 ○十分な取組であると思います。 ○地域も高齢化で、学校に関わる人も限定的になってきているが、行事への参加呼びかけは続けていくことが良いと思う。学校からの発信、子供たちの情報（短歌等）を待っている人も居るので…。 ○地域の行事への参加は課題である。 ○坪谷小は、地域の協力がなくてはならない学校です。先生達もそれを十分に理解され、尽力されている事に頭が下がります。 ○地域との連携は、坪谷小では不可欠だと思う。次年度は、児童減少もあり、よりつながりが心配である。	
	学校の様子の積極的な情報発信		3.7	3.7	3.7	○週1回以上のホームページの更新 月1回の学校だより	毎月発行する学校だより「ほととぎす」、学級担任が定期的に発行する「学級通信」、定期的に更新を行った「ホームページ」、学校行事等をお知らせした「坪谷小安心メール」「地域への回覧」を積極的に行い、学校・学級の様子を地域や家庭に発信できた。次年度は、学校運営や坪谷小の取組、東郷学園との合同学習等についても記載する。	A				
小中一貫教育の実現	東郷地区の小中一貫教育の目標（グランドデザイン）の理解		3.3	3.2	3.3		グランドデザインについては、PTA総会、地域ネットワーク協議会で周知を図った。また、東郷学園区で合同研修会を実施し、グランドデザインの実施状況の確認や見直しも行った。更に「郷育」を図るためにも、通信等を通じて東郷学園と連携したグランドデザインに基づいた取組を行い、発信していく。	A	B	B	B	○本校の将来に関わってくださることだと思います。東郷学園との連携が不可欠だと思いますので、児童の色々な将来を描きながら、よりよい方向に進むことを望みます。 ○次年度は、東郷学園との更なる密の連携が必要と思います。 ○小中一貫の東郷学園とは違い、坪谷小では大変な面も多いと思います。 ○坪谷小学校にとっては、変則的な小中一貫であるが、様々な交流を通して東郷学園との連携が図られているように思う。 ○今後、東郷学園との交流が充実していけば良い。 ○グランドデザインについては、理解が十分に浸透しているとは言えない部分があるのではと思います。今後の連絡会等を通じて理解を深めていくことが重要と思います。 ○東郷学園との交流は、必要不可欠なので、積極的に行い、特に同学年とは、良く慣れてほしい。
	小中一貫した共通実践の充実		3.2	2.9	3.0	○幼保小中関連研修への完全参加	東郷学園との集合学習や、遠足・集団宿泊的行事を通して、両校の連携した指導を深めるとともに、合同研修会でのグランドデザインの見直し、精査を行ってきた。また、日々の授業においてもICTを活用し東郷学園と連携した授業を実施することでもできた。	B				
	小中一貫した児童生徒の育成		3.2	2.9	3.0		次年度は、グランドデザインを基にした児童生徒の育成において、共通理解や共通実践項目を適宜確認したり情報交換を行ったりするための連絡会を両校の教務主任が行う。	B				

評価委員意見総括

○ 教職員の皆様は、慣れない小規模校で、良く職務を回していると思います。感謝いたします。達成度評価におけるB評価の部分は、家庭内の環境によるもので、もう少し改善できるように思われます。

○ 来年度は、2名スタート寂しくなりますが、学校が有る限り、地域住民として協力させて頂きます。

○ 保護者説明会に参加しましたが、いよいよ集大成の時を迎えたと感じました。次年度、現状できることに集中する方向で良いと思います。

○ 運営委員として今年1年参加できないことが多く、すみませんでした。運動会に参加させてもらい身近に子供達や親を見ることができ、良かったと考えます。

○ 少人数ながら、安定した環境がつくれていたと思う。来年度は、急な変化の中でも、少しでも子供達への負担がかからない様に取り組まなければならない。